

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校玉城わかば学園）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		自立をめざし、子どもたち一人ひとりが輝く玉城わかば学園
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく学び、よく遊び、いきいきと生活する子ども</li> <li>・すすんで社会に参加する子ども</li> </ul>
	ありたい 教職員像	特別支援教育のスペシャリストとして、常に資質向上に努め、児童生徒・保護者・地域から信頼される教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>&lt;児童生徒&gt; 卒業後に必要な自立や社会参加のできる確かな力を育ててほしい。</p> <p>&lt;保護者&gt; 子どもたち一人ひとりの育った背景を理解し、個に応じた教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。</p> <p>&lt;地域&gt; 地域における特別支援教育の充実と推進のため、常にセンター的機能を発揮してほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p>&lt;保護者&gt; 子どもたちを理解し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。子どもたちの一番の理解者でいてほしい。</p> <p>&lt;学校等の各機関&gt; 特別な支援が必要な子どもたちへの指導について、支援、助言、情報発信をしてほしい。</p>	<p>&lt;保護者&gt; 学校あるいは関係機関と連携し、密接な協力関係をもって、家庭における指導を進めてほしい。</p> <p>&lt;学校等の各機関&gt; 特別な支援が必要な子どもたちへの全校的な支援体制を確立し、指導する教員の専門性を向上させ、発達障がいを含む障がいのある児童生徒の指導を充実してほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成31年度の本校児童生徒数は、今年度より減少する見込みであり、それに伴って教員数も減少する。一部の学部では、従前から実施している形態での授業展開が難しくなることも予想される。12年間を見通した系統的な教育活動を行うとともに、より効率的で児童生徒個々の特性やニーズに対応した教育活動を模索する必要がある。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流及び共同学習については、お互いに効果のある取組であるが、日程調整や準備に係る時間の確保が課題である。</li> <li>・スクールバス避難訓練については、訓練として一定の成果はあるが、保護者への通知文の表現等はわかりやすくする必要がある。</li> <li>・健康推進については、思春期の子どもへの性教育（研修・書籍・教材の確保を含めて）を充実する必要がある。</li> <li>・教育活動については、学年割・学部割ばかりでなく、生徒の状況に応じて学年・学部を超えた生徒集団で実施する教育活動があってもよい。</li> </ul>	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員研修については、教職員アンケートの数値は高いが、研修によりどう教職員の生徒へのかかわりが変わり、それによりどう生徒が変容したのか具体的に明らかになるとよい。</li> <li>・教職員の専門的な指導力を向上するとともに、新学習指導要領に対応した授業が実施できるよう研修体制を充実する必要がある。</li> <li>・児童生徒数の減少に伴い、現在あるコース制（普通コースⅠ類・Ⅱ類、職業コース）の見直しが必要である。</li> </ul>	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○教育実践の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人ひとりの個性を尊重し、あらゆる場面で人権を尊重する組織づくりの強化に努める。</li> <li>・児童生徒一人ひとりの特性・可能性を的確に把握し、高等部卒業後の生活や進路を見据え、各学部段階におけるキャリア教育の視点を踏まえて、個々に応じた充実した教育実践に取り組む。</li> <li>・一人ひとりの自立と社会参加をめざし、保護者や関係機関との話し合いや連携を密にして、指導や支援を進める。</li> </ul> <p>○特別支援学校としての教員の専門性とセンター的機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校に勤める教職員としてのさらなる専門性の向上をめざし、教職員各自が自らの課題を意識して研修活動に取り組む。また、毎日の授業力の向上をめざし、授業公開などの機会を通じて、地域へその持ちうる力量を公開し還元する。</li> <li>・地域の特別支援教育のセンター的機能を発揮する学校として、市町教育委員会及び関係機関等との連携を深め、小・中・高等学校等に対する支援の充実を図る。</li> </ul>
学校運営等	<p>○安心・安全な学校生活の保障</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒にとって安心・安全な学校づくりをめざす。そのためにも、学校危機管理体制のさらなる充実をめざす。</li> <li>・大規模災害に対する様々な非常事態を想定した対応ができる備えを進める。</li> </ul> <p>○学校運営の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校組織の全体的な見直しを図り、より機能的、効果的な体制で学校運営を行う。</li> <li>・保護者や地域の期待、要望を把握し、随時学校運営に反映する。</li> <li>・全ての教職員が、本校の社会的使命と役割を自覚し、児童生徒・保護者・地域から信頼される教育活動を実践する。</li> <li>・教職員の総勤務時間の縮減を図り、個人の健康に配慮し合える環境づくりをめざす。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考	
教育課程・学習指導	<p>○学習指導要領に沿った授業を行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示された各教科の目標や内容等を、児童生徒の実態を踏まえ適切に取扱う。</li> <li>・各教科等を合わせて指導を行う場合でも、各教科等に示す内容を基に、具体的に指導内容を設定する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、学習指導要領の内容を理解し、概ね学習指導要領に沿った授業を実施できた割合：80%以上</li> </ul> <p>○児童生徒の生活年齢だけでなく発達段階による学習集団での教育活動も実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の教育的ニーズを把握し、学部を超えた発達段階による学習集団での教育活動も実施する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、児童生徒の教育的ニーズに合う教育活動が概ね実施できた割合：80%以上</li> </ul>	<p>○学習指導要領</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の内容を学習する校内研修を行った。</li> <li>・各教科等を合わせた指導については、何の教科を合わせているかを明確にするために内訳表を作成した。</li> </ul> <p>◎達成率90%</p> <p>○発達段階による活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部作業学習、体育、中学部体育において縦割りグループを編成して発達段階に応じた指導を行っている。</li> </ul> <p>◎達成率97%</p>	◎	※

	<p>○学部間交流を実施し、学部を超えた交流を実施する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の中で可能な場面において学部間交流を実施する。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、学部間交流を通して、お互いを認め合う人間関係が概ね形成できたと答えた割合：80%以上</li> </ul>	<p>○学部間交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部の生徒が小学部、中学部において本の読み聞かせを行った。高等部と中学部の一部生徒で、ボッチャを行い、高等部生徒がゲームのルール説明、進行を行った。高等部と小学部が合同で芋の収穫を行った。</li> <li>・中学部生徒が小学部に簡単なプレゼントを作り、メッセージカードを添えて手渡した。</li> </ul> <p>◎達成率73%</p>	※
進路指導	<p>○卒業後も地域の中で安心して、自分らしく暮らしていけるよう、計画的・組織的にキャリア教育を進め、進路希望の実現と地域生活への円滑な移行を図る。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対象の進路説明会や、地域の事業所を対象とした学校見学会を実施する。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部生徒の進路希望が実現できた割合：80%以上</li> </ul>	<p>○キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部、高等部各学年で保護者対象の進路説明会を実施。それぞれの時期に応じた説明を行い、個に応じた指導を行った。</li> <li>・福祉事業所や企業対象の学校見学会を実施。学校の現状や児童・生徒の様子を理解していただいた。</li> </ul> <p>◎高等部3年生31名（1名は未決定）の進路先が決定。成果指標80%達成</p>	※
生徒指導	<p>○スクールバス・自主通学とも、安全な通学支援を実施する。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者やスクールバスの介助員と十分な情報交換を行う。</li> <li>・登下校指導や交通安全指導を行う。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、概ね児童生徒に交通安全を意識させることができたと答えた割合：80%以上</li> </ul>	<p>○安全な通学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時刻表を交通状況に合わせ令和2年1月改訂。</li> <li>・介助員との情報交換、児童生徒の個別緊急時対応マニュアルの作成(介助員に周知)、バス内での応急処置研修を行った。</li> <li>・自主通学生の登下校指導や、交通安全教室(自転車)により、自転車のマナーや交通安全の意識が向上した。</li> </ul> <p>◎達成率89%</p>	※

<p>保健管理</p>	<p>○児童生徒一人ひとりの実態を把握し、健康な心身の成長を支援する。  <b>【活動指標】</b>  ・定期的に身体測定や健康診断を行う。担任・養護教諭等での情報交換や、児童生徒との日々の会話などから、身体や行動の状態把握をする。  <b>【成果指標】</b>  ・教職員アンケートにより、児童生徒の健康状態について把握するよう概ね意識して取り組めたと答えた割合：80%以上</p>	<p>○健康な心身の成長  ・健康診断・各主検診による児童生徒の状態を把握した。  ・体重測定により、体重増が心配される児童生徒に働きかけを行い、意識を高めた。  ・登下校時の観察、担任との情報交換から心身の変化の把握に努めた。  ◎達成率92%</p>	<p>※</p>
	<p>○美味しく安心できる給食を提供すると共に、健康で生き生きとした生活を送るために食育指導を充実させる。  <b>【活動指標】</b>  ・安全な給食を提供するため、環境管理と細心の注意を払う。  ・発達段階に応じた食に関する指導と調理する人への感謝の気持ちや食材への興味を育てるような活動に取り組む。  <b>【成果指標】</b>  ・教職員アンケートにより、概ね児童生徒に食に関する興味関心や調理する人への感謝の気持ちを高めることができたことと答えた割合：80%以上</p>	<p>○安心できる給食  ・異物混入発生を防ぐ為に、調理服、調理器具、食材の管理を徹底した。  ・食への関心や作ってくれる人への感謝の気持ちを育む食育に取り組み、調理員に「ごちそうさま」と言ったり、感謝の気持ちを伝えたりできた。  ◎達成率 91%</p>	<p>※</p>
	<p>○児童生徒の発達段階に応じた性教育を実施する。  <b>【活動指標】</b>  ・教職員の研修を実施すると共に、児童生徒の発達段階に応じた性教育を実施する。  <b>【成果指標】</b>  ・教職員アンケートにより、児童生徒の教育的ニーズに合う性教育が概ね実施できたと答えた割合：80%以上</p>	<p>○発達段階に応じた性教育  ・学部、学年に応じた性に関する学習（清潔・人との関わり方・身体について）により、身だしなみ等の意識が向上。  ・外部講師による教職員の研修会、生徒（中・高）の学習会により、意識が高まった。  ◎達成率76%</p>	<p>※</p>

#### 改善課題

- 学部間交流においては、学部を越えた交流を行ったことで、高等部や中学部の生徒が感謝を伝えられることで達成感を感じたり、小学部の児童が高等部の生徒が来てくれることを楽しみにしたりとお互いを認め合える活動を行うことができた。今後も継続していく。
- スクールバスの運行については、昨年度の保護者からの要望を受け、中学部では個別懇談会で児童生徒一人ひとりの様子を保護者に伝えたので、今後は各学部を広げていく。保護者の「介助員さんから直接聞きたい」という声もあるので、来年度はその実施方法を検討する。
- 性教育については、学部、学年の実態に合わせた学習を行った。子どもたちの意欲が高まったことが感じられたので、継続する。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」:定期的に進捗を管理する取組 「◎」:最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
不祥事の根絶	<p>○「三重県立特別支援学校玉城わかば学園教職員倫理規定」を定期的に確認し、常に意識して行動する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回(各学期1回ずつ)、意識して行動できたか確認する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、概ね意識して行動できたと答えた割合:100%</li> </ul> <p>○「信頼される学校であるための行動計画」チェックリストを定期的に実施し、常に意識して行動する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回(各学期1回ずつ)、チェックリストを実施する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての項目:90%以上</li> </ul>	<p>・「倫理規定」「チェックリスト」共に、5月と9月と2月に行った。特に9月は個別面談で確認した。「風通しの良い職場環境づくり」の項目が低い。年齢・経験年数・本校での勤務経験年数の差で、物が言いにくいことに加え、他学部・他学年・他クラスのことについては言いにくいという教職員の実態が明らかになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度途中からヒアハットを報告書にまとめ回覧することで意識を高めるようにした。</li> </ul> <p>◎達成率100%</p>	<p>※</p> <p>※</p>
教職員研修	<p>○実効性のある教職員研修を実施し、専門的な指導力を向上すると共に、新学習指導要領に対応した授業が実施できるよう教職員の意識向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領について研修する。</li> <li>・各教科等の目標・内容の系統表を作成する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、新学習指導要領について概ね理解し意識向上が図れたと答えた割合:80%以上</li> </ul>	<p>○専門性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中高等部教職員混成の教科等グループ研修を8回実施し、新学習指導要領の内容と系統性の理解及び指導案の作成・実施した。また各教科等の目標・内容の系統表を作成した。</li> </ul> <p>◎達成率82%</p>	◎
センター的機能の充実	<p>○地域の学校や関係機関と連携しながら、教育相談や公開講座などを実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践研修:小中は6月と10月、高は1学期に実施する。</li> <li>・夏季講座:年1回実施する。</li> <li>・地域支援:依頼に基づき随時実施する。</li> </ul> <p>※伊勢まなび高等学校における通級指導についても、支援を行う。</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者へのアンケートで、概ね満足と回答した割合:80%以上</li> </ul>	<p>○教育相談、公開講座等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践研修は、小学部2名の参加のみ。今後の方向性についてアンケートをとり、来年度から、候補日も追加、2日から1日の研修に変更する。</li> <li>・夏季講座は、夏季休業中に本校のSTによる研修を行った。</li> </ul> <p>◎達成率 概ね満足と回答した割合90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談では依頼を受けた相談に全て対応できた。各校2回の実施しているが、相談件数は</li> </ul>	※

		増えてきている。また、伊勢まなび高等学校への支援も行った。	
危機管理	<p>○より充実した避難訓練を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・従来の活動に加え、消火訓練を実施したり、ヘルメットを着用して避難するようにする。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、ヘルメットの着用について、事前指導・事後指導も含めて、概ね児童生徒に意識させることができたと答えた割合:80%以上</li> </ul> <p>○備蓄品・備蓄食品の保管方法を改善する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災倉庫の備蓄品や備蓄食品を安全な場所に移動する。</li> <li>・教室保管の児童生徒用備蓄食品の保管方法を改善する。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、より適切な保管方法に改善できたと回答した割合:80%以上</li> </ul> <p>○不審者対応について検討する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員対象の不審者対応研修を実施する。</li> <li>・児童生徒への啓発をする。</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員アンケートにより、概ね不審者対応について理解できたと答えた割合:80%以上</li> </ul>	<p>○避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回避難訓練では、9割以上の児童生徒がヘルメットを着用できた。第2回は特別教室にいる生徒が多かったため、着用率は7割以下となった。</li> </ul> <p>○備蓄品等の保管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災倉庫の備蓄品・備蓄食品の一部については分散して校舎内に保管した。</li> <li>・教室保管の児童生徒用備蓄食品は、賞味期限を1年以上のものとし、年度末に持ち帰り次年度初めに新たに持ってくる方法に切り替えた。</li> </ul> <p>◎達成率90%以上。</p> <p>○危機管理部夏季研修会において実技を交えながら不審者対応研修を行った。参加者の約9割が理解できたと答えた。</p>	<p>※</p> <p>※</p> <p>※</p>
働きやすい職場環境作り	<p>○健康で働きやすい職場環境作りのために、総勤務時間の縮減に取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ノー会議、ノー残業デー」（定時退校日）：月1回設定する。</li> <li>8月は全日「ノー残業デー」とする。</li> <li>・職員会議等の時間設定：1時間以内とする。</li> <li>・部活動休養日の設定：1週間のうち1日は休養日とする（日曜日）。活動時間は、平日は、2時間以内とする。</li> <li>・時間外労働：月1人あたりの平均時間外労働時間を前年度比で5%削減する。</li> <li>・休暇取得：年間休暇取得日数を前年度比で年0.5日増加する。</li> </ul> <p>【成果指標】（ ）内の値は平成30年度の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時に退校できた職員の割合：90%以上（88%）</li> <li>・職員会議1時間以内の実施率：92%以上（91%）</li> <li>・活動日、活動時間の守れた割合：100%（100%）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月平均時間外労働時間：6.4時間以下（6.8時間/月）</li> <li>・年間休暇取得日数：18日以上（17日4H/年）</li> </ul>	<p>○総勤務時間の縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退行日の意識は高まっているが、一部教員の退勤が遅くなることが多く、仕事の偏りが心配される。</li> <li>・総勤務時間の集計について、昨年度よりも実数が入力される割合が増えている面もある。</li> </ul> <p>◎達成率（1月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退行91%</li> <li>・職員会議80%</li> <li>・部活動休養日100%</li> <li>・月平均時間外労働時間7.6時間/月</li> <li>・休暇取得日数12日3H</li> </ul>	<p>※</p>

## 改善課題

- 「倫理規定」「チェックリスト」から、年齢・経験年数・本校での勤務経験年数の差などから、職員間で物が言いにくいことがある。管理職に相談してもらうことで、気になることを放っておかない職場づくりを行う。
- 教職員研修を新学習指導要領の学習をテーマに 8 回連続で行った。実効性のある研修会を考えたときに来年のテーマをどうするか検討する。
- センター的機能の充実にかかわって、教育実践研修の参加人数が減っていることから、来年度の実施方法について検討する。巡回相談は、相談件数が大幅に増えているので、市町教委に回数制限をお願いして対応する。
- 防災倉庫の備蓄品・備蓄食品の安全な場所への移動は一部終了したので、継続して取り組む。

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>○性教育は、来年度以降も継続してほしい。このような機会があることで、子どもが知りたくても聞けないことを知ることができたり、間違った認識をただすことができる。また、保護者もどう教えたらよいか分からないので、親子で参加できる機会もあるとよい。地域でも同様の課題があるので、このような機会があるときには、学校関係者評価委員にも案内してほしい。</li> <li>○スクールバスの中でのトラブルで悩みを抱えている児童生徒もいる。また、保護者はスクールバスの中での様子がほとんどわからない。来年度は、ぜひ保護者とスクールバスの介助員が情報交換できる場を設定してほしい。</li> <li>○教育実践研修の参加者が少ないようだが、現場のニーズが変わってきているのではないか。小中学校の教員も、学校を離れて研修に出にくい状況があるのではないか。</li> <li>○チェックリストで行動を確認するのも大切だが、教員それぞれの感覚で捉え方に差があるので、周りから見たときにどうなのかという視点が必要ではないか。</li> <li>○パーソナルカルテの活用について、課題がある。切れ目のない支援のために活用するものだが、保護者の意識も 2 極化しているし、関係機関もあまり意識していないところもある。児童生徒の支援情報を円滑に引き継ぐために、活用できるような仕組み作りが必要である。</li> </ul>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学部間交流により学ぶことも多いので、引き続き学部を超えた取り組みを実施する。</li> <li>○保護者にスクールバス内の様子を伝える取り組みを充実させ、保護者と介助員が情報交換できる場の設定を検討する。</li> <li>○周りの人たちに感謝の気持ちを育む教育を継続する。</li> <li>○性教育については保護者も参加できる機会も設け、継続する。</li> <li>○子どもの姿の変容をもって、取り組みの評価を行う。</li> </ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○不祥事に繋がりそうなヒヤリハットについては情報共有し、誤解を招く行動をしないように、常に意識する。また、まわりの気になる行動は、管理職まで情報が入るようにする。</li> <li>○教職員のスキルを向上するための研修を継続する。</li> <li>○教育実践研修は、現場のニーズを把握したうえで見直す。</li> <li>○防災備蓄品を安全に保管できるよう移動させる。</li> </ul>